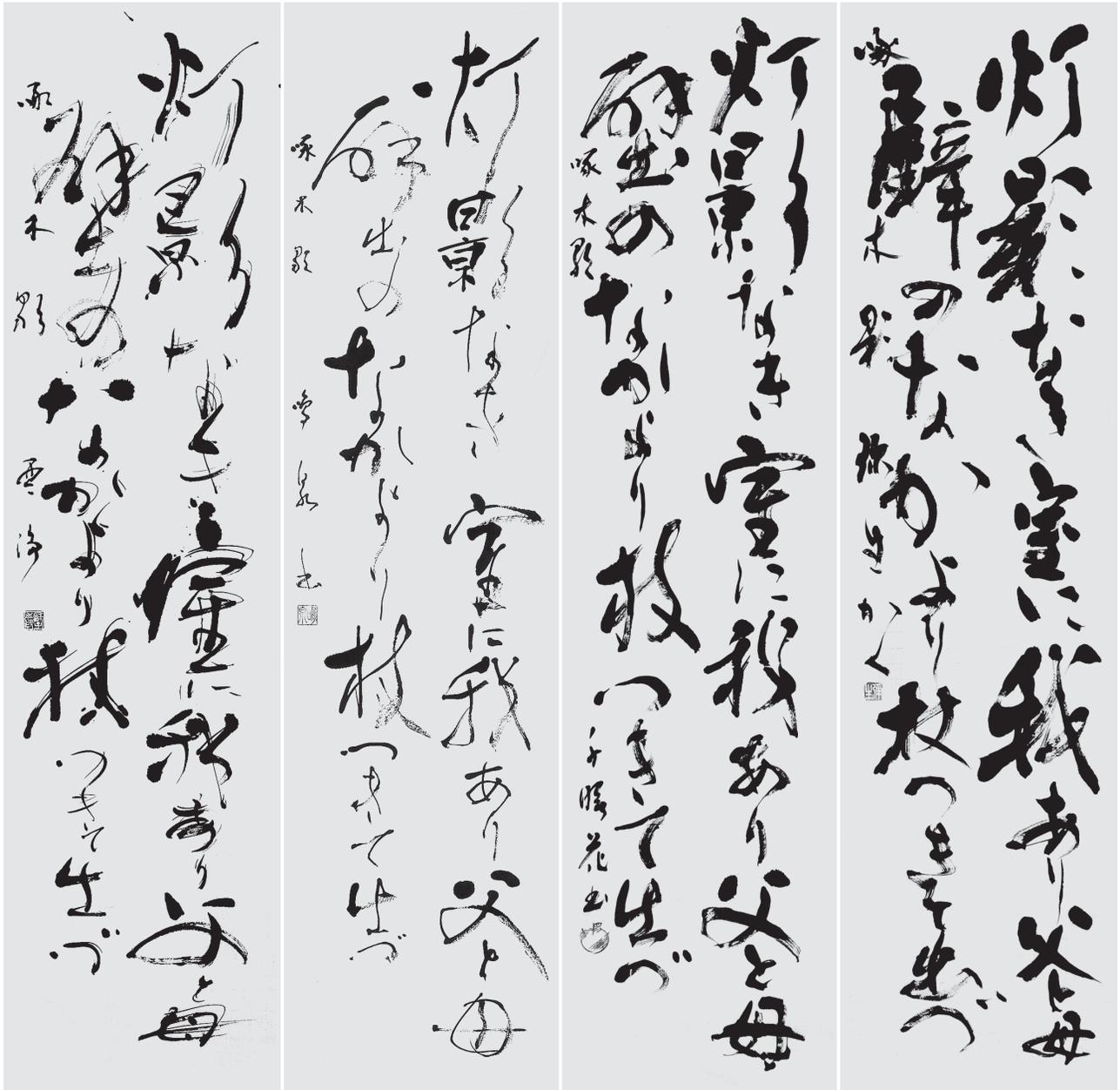


桜井辰雄先生選評



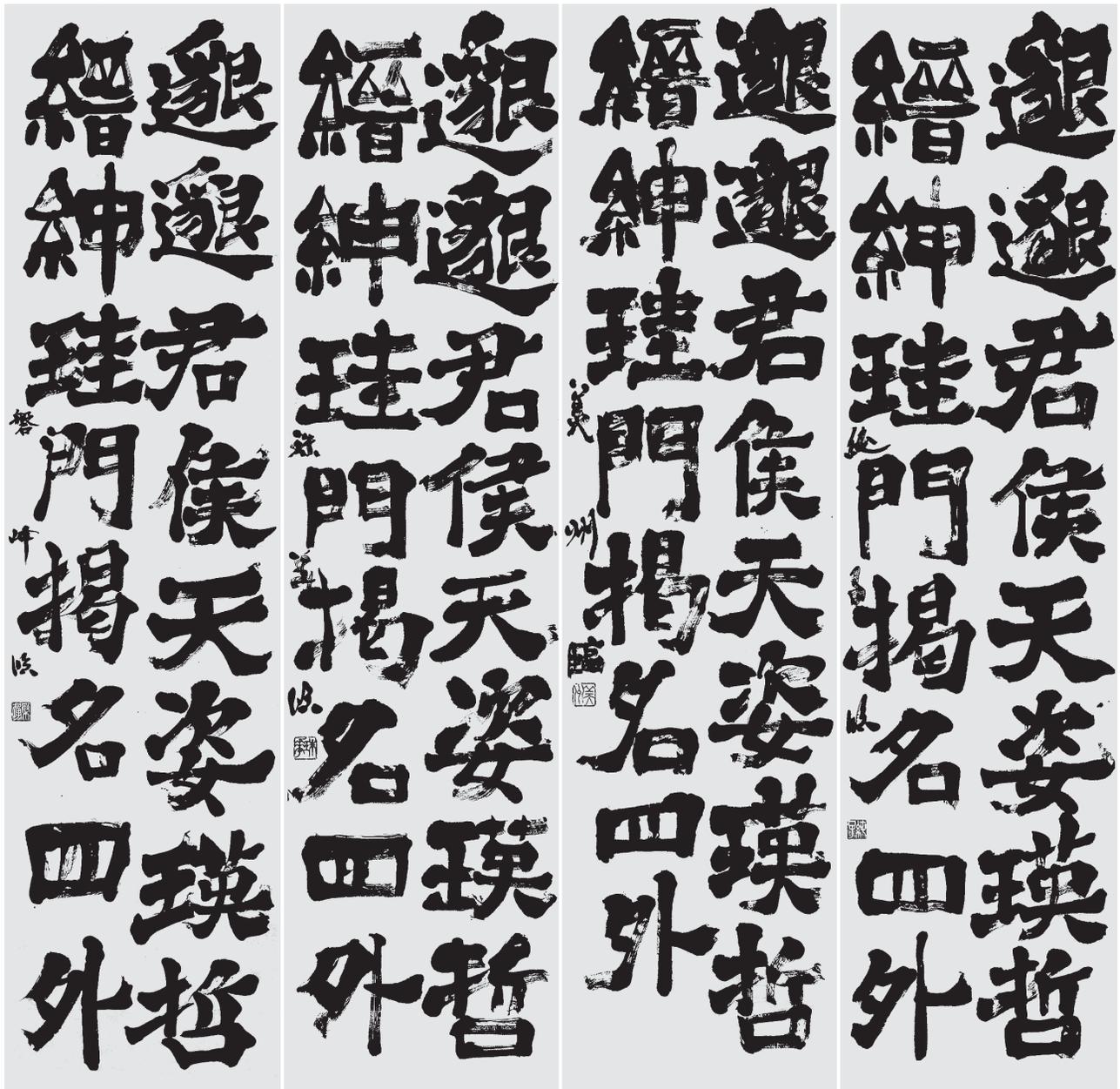
小淵 弥生 推選
 弾性の効く筆による鍛錬されたひらがなが、多彩な表情で漢字との調和を生み秀逸。大きな落款が二行目の空間を絶妙なものにして「啄」の位置は再考を。

山口 千睡花 推選
 筆の浮沈を巧みに生かし上部から下部へと、伸びやかに引かれた線の柔らかさにくねりが加わり清らかな流れを見るよう。「啄木歌」を狭間から解き放したい。

棚木 鳴泉 推選
 長鋒へのチャレンジが始まって間もないのかきこちなさも散見されるが、それにも増して潤濁を活かした線の表情の豊かさ、温かさが活きた秀作。落款も大らかに。

二宮 琴浄 推選
 破筆が運筆のリズムに乗っかり小気味良くお洒落に紙面を走っている。上手さは山ほどだが「壁の」より「な」よりで見せる潤濁、遅速、強弱の対比は白眉。

江幡太瓏先生選評



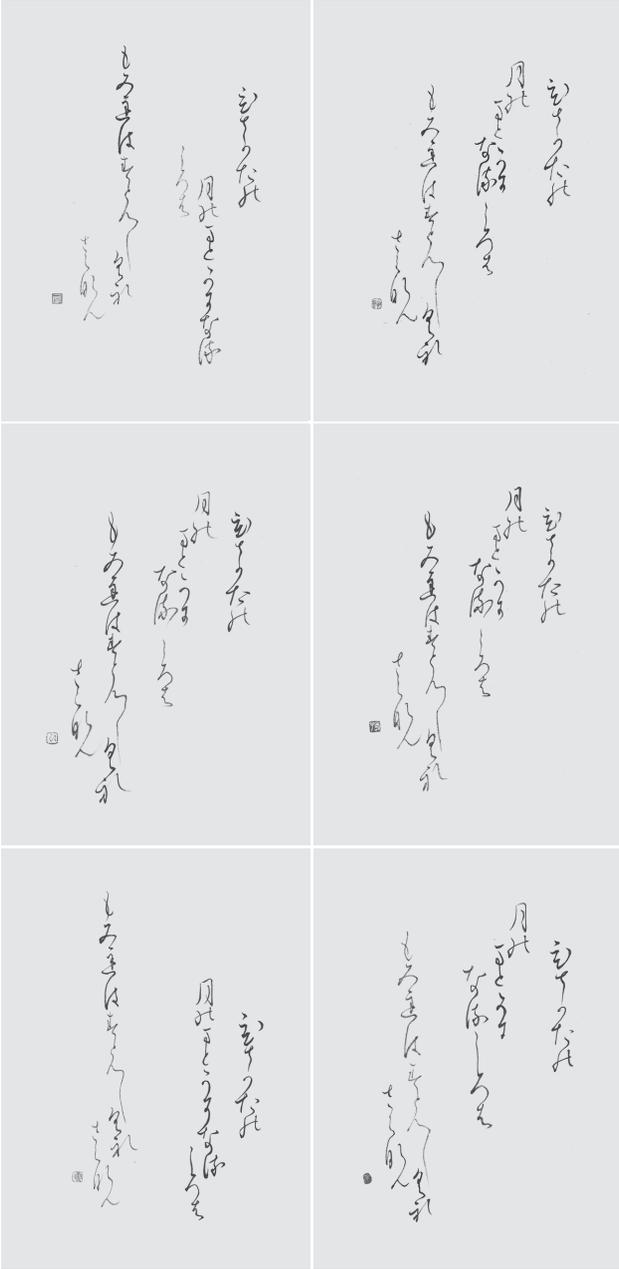
丸山 純子 推選
 落筆高く、造像記の様な起筆、収筆の突き上げ、そして隷書を思わせる藏鋒など線に鋭さと明るさがあります。渴筆がもう少し欲しかった様に思います。

久松 美州 推選
 一、二字目滲みで筆路がはつきりしなかったのは残念だが、重厚な線で潤濁も良い。特に終わり二字の線質表情素晴らしいです。墨は何をお使いでしょうか？

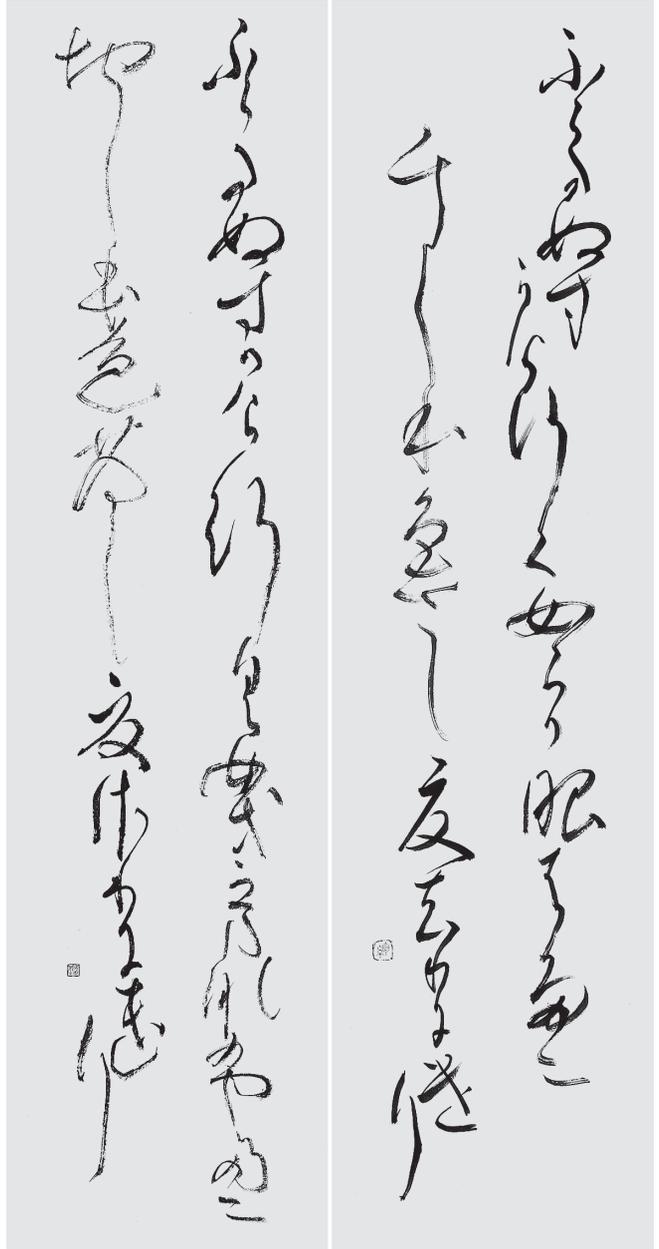
阿山 珠華 推選
 書き出しやや大きかったが文字の表情、原帖を良く観ており、潤濁、大小、太細も良く艶やかな線が魅力です。払いやはねの部分の最後まで気持ちぬかない様に。

渡辺 磐峰 推選
 第一印象、明るく、若々しく章法が素晴らしいです。遅速、軽重の変化もお見事です。「外」もう少し上で終わりたかったのと、お名前本文の様に太く、大きく。

赤富士北祭先生選評



露崎桂子先生選評



川上 厚子 八段
文字の散布を工夫した作者の意欲が素晴らしい。どの部分の動きをポイントにしたいかがはっきりすると、構成が浮かび、脇役が生まれてくる。

木内 英子 六段
掌の開閉もよく、緩急を活かせた自在な連腕から生まれる明るい線は流石。終句の「し」をやや右に、下部にある「具・札」は小さめに。

岩本ゆき子 五段
丁寧な古筆を読み取り、すっきりとした明るい作。作品なので、書き出しの「飛」は小さめに、尺牘なども参考にしましょう。

秦ひとみ 師範
リズムに乗った筆の軌跡が、仮名文字同士のハーモニーを生み出し、心地よい空気が広がっている。線の呼吸も長く味わい深い作品。

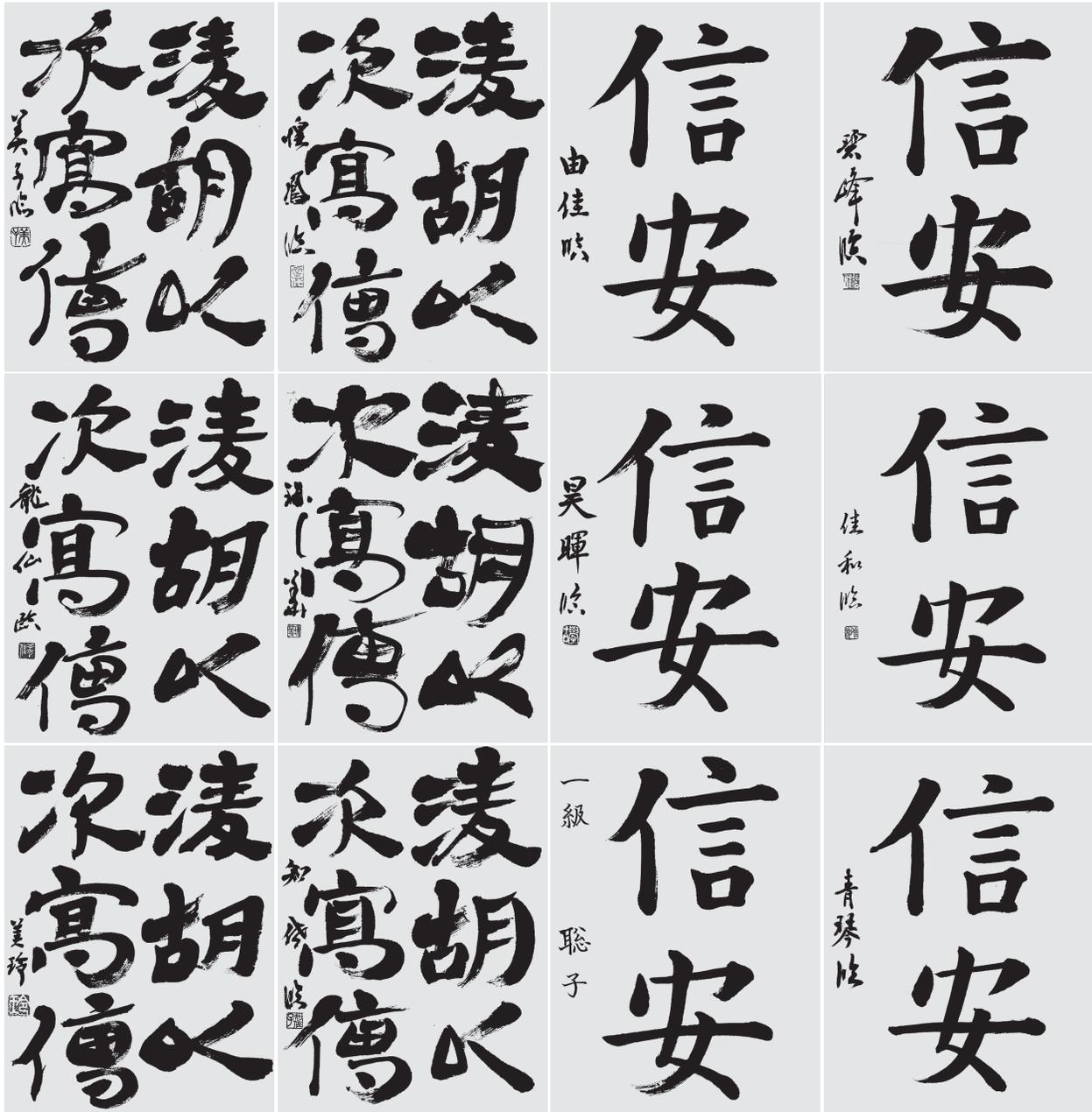
後藤 煌雪 師範
ソフトな筆のタッチを活かし、優美で豊かな仮名の世界を表現した。時折見せる転折の確かさもよい。「月」の転折を和洋漢字風に。

東谷 美子 準師
墨法を効果的に用いて焦点がはつきりとした作。筆の開閉も自然で見事後半明快な場面の变化もよく、創作に繋がるような表現も申し分ない。

村上春風 推選
書き出しからリズムに乗り、動きのある文字が趣き深い流れを作っています。墨色の変化が自然で美しいばかりでなく、力強い運筆にも心ひかれます。

石本絢子 推選
明るく伸びやかに表現され、違った纏めがよく生かされています。素直な勢いのある線が魅力ですが、文字にやや大胆さが加わると更に奥深い作になるでしょう。

武良霜伯先生選評



藤井碧峰 師範
 一步一歩呼吸を整えながら、地に着いた確実な作品です。楷書の正確な学び方を会得しており、腕の確かさが感じられる快作です。

橋本佳和 八段
 筆の握りが柔らかく、楽に書かれているのが良いです。軽く自然な流れの中に、明るく表現している作品づくりは達腕の方だなと感心しました。

江原青琴 七段
 この碑の構築美は唐楷書の第一とも言われるが、起筆取筆、転折など、基礎鍛練の成果が見事です。更なる精進を期待しております。

杉本由佳 三段
 起筆、転折、収筆などの細かな筆遣いに意を注いで、楷書の正確な学び方を会得しております。落款の研究と、印があれば更に引き立ちます。

橋本昊暉 初段
 やや小振りながら腕の動きがソフトで、丁寧に習う姿が感じられ安らぎます。この静かな学び方から少しずつ強さを求めた研究もされたし。

東川聡子 一級
 楷書の正確な学び方は、やがて自己の元へ戻って来ます。原帖を良く観察しており、形体も安定感があり、全体の章法も決まっています。

加藤惶鳳 師範
 筆致の正確さと、心の躍動が紙面に良く伝わり、流石。この作品には余裕さえ感じられます。余白も明るく、作者の力量の高さに敬服しました。

阿山珠華 準八
 筆力グングンと大胆に表現しており、立体感とリズムカールな動きで秀でていきます。上手く纏めようとせずこの大きさを大切にしていたみたいです。

高木知佐子 準七
 軽快で悠然としていて、何と爽やかな作品でしょう。筆の握りが良く、線が飛動しています。素晴らしい資質を増々磨いてください。

東谷美子 四段
 筆の開閉が自在で魅力ある美しい線で、迫力を感じます。生き生きとした線で、瑞々しく疎密の変化の大きい、創作性の多い快作です。

池田龍仙 四段
 慎重に呼吸を整えるように書作しており、落ち着いた用筆で好感が持たれます。軽妙の中に全体を読もうとする意志も感じられ自然で良いです。

吉武美鈴 二段
 木簡のリズムを柔らかく温かく、良く表現しています。豊かな墨量の中にも渴筆を配して、軽妙な連筆があり、暢達した作品で素晴らしいです。